2318 リニアック照射後の内分泌的変動 —RIAを用いた基礎的検討—

（広大，放） 手島昭樹，森 正樹，本家好文
小山 矩，勝田 静知
（広大，1内） 田中 孝，河村 寛，三好秋馬
（広大，3内） 宮地幸隆

肝臓を選択的に照射した際の肝内 glucocorticoid レベル，その receptor (GR) の変動を検討し，合わせて cyclicGMP (cGMP)，核 DNA 等を測定した。ラット肝に 8 MVX線 1000rad を 1 回照射し，直後，1，2，5，7，12日後の肝臓を摘出した。細胞質GRは ^{3}H-dexamethasone と 4 °C，3 時間incubate 後の結合能により測定した。核DNAはBurtonの方法により，血清及び肝細胞質中及び核中corticosterone(Bk)はRIAによって測定した。血清及び肝細胞質中の Bk は照射直後に増加し，核内 Bk も直後に上昇し 1 日後に最高値を示した。細胞質 GR は照射直後は変動なく 1 日後に軽度の低下を示しその後 2 ～ 5 日で回復した。核 DNA は 1 日後に著明に低下し比較的早期に回復した。cGMP は照射直後から 1 日後にかけ明らかな上昇を示した。X線照射後~数日間の各分画中のBkの一過性の上昇は一般の stress と同様の pattern を呈しているが，cGMP の上昇のメカニズムは不明であり，今後さらに検討の予定である。

Presented by Medical*Online